

平成29年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

音楽による障がい改善の 新たな手法の普及事業 成果報告書



2018年3月

認定特定非営利活動法人アジェンダやまがた
代表理事 児玉 千賀子

〒990-0044 山形市木の実町2-17 ダイヤ37木の実町

TEL : 023-679-4045 FAX : 023-679-4047

E-Mail : salon@ruby.plala.or.jp ホームページ : <http://nanoka.info/>

■ はじめに ～音楽の楽しさで、こころと耳をひらく～

アジェンダやまがたでは、障がいのあるお子さまに対して音楽レッスンを提供しております。

コンセプトは『こころをひらいて 耳をひらく』、なかなか注意深く聴くことが難しいお子さまに対して、音楽を楽しむことで聴く事に関心を持っていただけるように、工夫を凝らした音楽プログラムを提供しております。

障がいのあるお子様の指導においては、単に音楽能力を高めることだけでなく、より注意深く聞くことができる耳を獲得すること、それにより日常生活でわかること・出来ることを増やすことが大切だと考えています。お子様自身が、耳からの情報をより得ようと耳の集中力が高まった状況を、私は「耳がひらかれた」と表現しています。日々のレッスンの中で、お子様と音楽の楽しさを分かち合い「耳をひらく」、そして、お子様の音楽才能を引き出すことができた時に感じる喜びは、何にも代えることができないものがあります。

しかし、障がいのあるお子様に音楽に関心を持って

いただけるよう指導することは、簡単にできることではありません。情緒障がいや知的障がいを持っているお子さま方を、音楽世界に導く難しさを感じてまいりました。

市販の楽器やテキストをそのまま使用する指導に、限界を感じてきました。

どのような楽器やテキストだったら、障がいのあるお子様にも興味を持っていただけるか。その答えはお子様から教えていただきました。

本事業では、障がいのあるお子様がスムーズに楽しく音楽レッスンに入ることをサポートし、指導される先生方の不安や不便を少しでも取り除くものとして教材を制作しました。音楽とお子さまのご指導に人一倍の愛を持っている先生方に、この教材をその一助としてご活用いただきますなら、これ以上の喜びはありません。

全てのお子さまが音楽に触れ楽しみ、将来に大きな夢を描けるよう願っております。

■ 開発の背景と目的

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを機に、障がい分野への注目が高まっています。その注目を一過性のトレンドで終わらせることなく、障がい児・障がい者の環境改善、QOLの向上を具体化することが喫緊の課題です。

現状、障がい児に対する特別支援分野において、特に音楽については障がい特性に配慮した指導教材・教具が圧倒的に不足しており、現場においては手作り教材などによる指導が行われています。働き方改革推進によって、教職員の業務のスリム化実施に向かう中、障がい児が理解しやすく、学校教員・音楽指導者が使いやすい教材の開発が一層求められる状況となるものと思われます。

また、一般的な音楽教室においても、障がいのある

お子様を受け入れることは難しく、長続きしないことが多くあります。現状で入手できる一般児童向け音楽テキストを用いて障がいのあるお子様の指導を行うことには限界があり、特にレッスンへの導入は最も困難で、初歩でのつまづきがその後の指導の機会を失わせることとなります。

本事業では、上記を背景として、特別支援対象児童の学習環境改善、音楽能力習得機会の拡大を目指し、障がい児が理解しやすく、かつ、学校の先生方や音楽指導者が使いやすい教材・教具の開発を進めました。指導の現場の要望に応える教材の開発により、障がいのあるお子様が音楽能力を習得する機会を保障、そしてお子様の自己肯定感の獲得、余暇活動の充実によるQOLの向上を目指します。

■ 事業内容・実績

① 山形大学宮崎昭教授研究室との連携による、障がい児対象の音楽指導のデータ解析

② 音楽指導における障がい児の行動分析

当法人では、平成23年より山形県認可の指定障害児通所支援事業(音楽なかまプリモ・音楽なかまアンジェリ)を運営し、音楽を用いた療育・音楽指導に特化した障がい児支援を展開しております。音楽を通じて、障がいを改善することを目指し、日々お子様と向き合い、レッスンを続けるなかで、アジェンダやまがた独自の指導方法が培われました。

本事業では、アジェンダやまがたでのレッスンのデータの解析・障がい児童の行動分析を行い、どのような音楽指導が障がい児に効果的であったかを、独自の評価スケールにより評価、検証し、その結果を基に、より効果的な音楽指導方法の追究、また教材等の開発を行いました。

研究は、臨床心理学・特別支援教育をご専門とされる山形大学地域教育文化学部 地域教育文化学科宮崎 昭教授、音楽分野をご専門の佐川 馨 教授にご協力いただきました。

研究結果は、関連常会での論文発表を予定しております。

③ 特別支援対象児のための音楽指導教材・教具の開発

『お子様にわかりやすく、指導者に使いやすい』をコンセプトに、自閉性特性に配慮した「わかる！」「できる！」で楽しく音楽指導に導入できる教材を目指し、以下の4つの開発を進めました。

- 開発教材 1 初めてピアノに取り組むお子様のためのテキスト「あぷり〜れ」
- 開発教材 2 新たな色音符スケール「ころ〜れ」
- 開発教材 3 セットを分割し、単音で使用できるカラフル木琴「アルモ」
- 開発教材 4 鍵盤対応プロジェクションマッピングアプリ「PMP」

5年以上にわたる実践の経験と音楽指導における障がい児の行動分析、教職員や音楽指導の先生方の意見を参考に制作した教材は、特別支援学校を訪問しての説明会等において、「今すぐにでも、使用したい」との声をいただいております。

開発教材 1

『こころと、耳をひらくテキスト あぷり〜れ』

『こころと、耳をひらくテキスト あぷり〜れ』は、初めてピアノに取り組むお子様のためのテキストです。「自閉症スペクトラムで軽度の知的障害を持つ小学校低学年のお子様は初めて音楽レッスンを始める」ことを想定しています。全4巻のうち、第1巻～第3巻はお子様用のテキスト、第4巻を指導者

向けのテキストとして構成しました。

障がいのあるお子様への指導の場合、もっとも難しい音楽指導の導入時期をお子様と指導者がともに音楽を楽しみ、楽器や音符に親しみながら、先の指導へと繋ぐことを目的としたテキストです。



ポイント

- 最も難しい導入時期に対応する、レッスンを楽しむ工夫を満載したテキスト
- 「見やすい気が散らない」をテーマに情報を視覚的に整理したページ構成
- スモールステップ(小さな課題設定)による緩やかに進行するお子様用テキスト3巻と、お子様用テキスト各巻をフォローし、指導案を提供する指導者用テキスト1巻

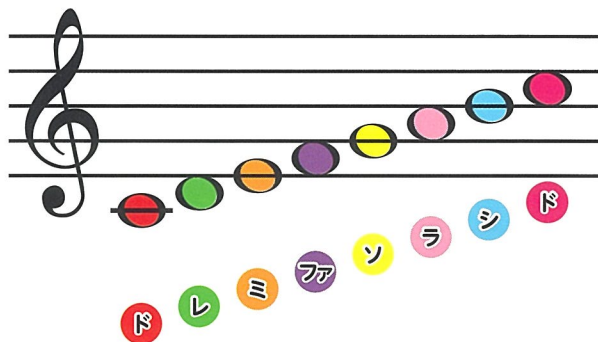
お子様には楽しさと分かりやすさを、指導者には豊富な指導案を提供する4巻セットは、障がいのあるお子様とのレッスンに対して、一般的な音楽教室の指導者の皆さんが感じる不安を軽減し、お子様を音楽世界に導く第一歩のためにお使いいただきたいテキストです。

開発教材

2

色音符音階『ころ〜れ』

自閉症スペクトラムのお子様は、視覚・聴覚の情報整理が苦手であったり、独自のこだわりをもっていたりするなどの特徴をもっています。その感覚の特徴を活かして、読譜力の向上に結び付けることができないかという発想から、当事業所をご利用のお子様48名を対象に、色音符音階の官能検査を行いました。その検査の結果、最も正解率が高く、また読譜速度の速かった色と音の組み合わせが、色音符音階『ころ〜れ』です。



ポイント

- 「並べた時に、視覚的に認識しやすいこと」を追求した配列
- 注意深く見ることが難しいお子様を引きつける配列

『ころ〜れ』の配色を使用したテキスト貼付用の音符シールの使用などにより、楽しく読譜に慣れ、音楽能力を習得していくことができます。また、テキストと連動した配色の鍵盤貼付用シールの活用や楽譜・楽器への彩色を行うことにより、効果が向上します。

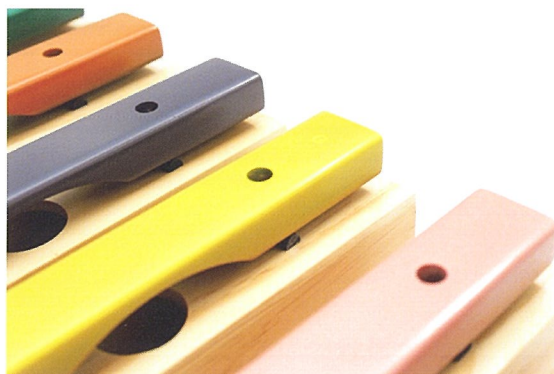
開発教材

3

単音で使えるカラフル木琴『アルモ』

カラフル木琴『アルモ』は、音板ごとに分割し、単音を独立して使用できる木琴です。お子様おひとりに

1音ずつでの使用ができるため、より多くのお子様で合奏を簡単に行うことができます。



ポイント

- 聴覚過敏のお子様の耳を刺激しない木製楽器のやさしい音色
- 単音で使用することで、演奏する音がわかりやすくタイミングの指導だけで合奏できる
- 1オクターブのセット(8音)を分割して使用することで、多くの児童による合奏が可能
- 色音符音階『ころ〜れ』と連動した色配列

配色は、色音符音階『ころ〜れ』と連動しておりますので、同じく『ころ〜れ』を使用した色音符楽譜と併用することで、より簡単に楽しく演奏することができます。

鍵盤対応プロジェクションマッピングアプリ『PMP』

鍵盤対応プロジェクションマッピングアプリ『PMP』は、プロジェクターを使用し、既存の鍵盤楽器に映像を表示させるアプリケーションソフトです。

鍵盤に色を表示する、絵文字やキャラクターなどを表示させる、また、動きのある映像でお子様の視線を誘導するなどのことができます。



ポイント

- 「ピアノ」に抵抗のあるお子様の興味を惹きつける
- 色音符音階と連動した色配列の見やすさ
- キャラクターや動きなどで、集中の持続しないお子様の興味を惹きつける
- M i d i キーボードと連動する指導者操作性の良さ

『PMP』を使用することで、集中の続かないお子様には難しいことの多い音楽指導の導入時期を乗り越え、楽しくレッスンを進めていくことができます。

事業成果

本事業の成果品発表会(平成30年3月実施)にて、特別支援学校を含む学校関係者の皆様、通所支援事業所を利用されている保護者の皆様、また、ピアノ教室

運営等の音楽指導者の皆様方を対象に、各教材をご説明させていただき、ご意見、ご感想をいただきました。

参加の皆様への質問 音楽指導の際、使用したいと思う教材はありますか？(複数回答可)

あぶり〜れ	初めてピアノに取り組むお子様のためのテキスト	38.1%
ころ〜れ 楽譜	色音符音階 ころ〜れを使用した楽譜	33.3%
ころ〜れ 鍵盤シール	色音符音階 ころ〜れを使用した鍵盤貼付用シール	42.9%
カラフル木琴 アルモ	単音で使用できるカラフル木琴	90.5%
PMP	鍵盤対応プロジェクションマッピングアプリ	61.9%

アンケート回答数：21

教材についてのご意見・ご感想

単音で使用できるカラフル木琴 「アルモ」

- ・ 単音で指導できるので、指導者にとっても導入しやすい。
- ・ 叩くという操作が大好きなので、子どもも取り組みやすい。
- ・ 色と音で、目・耳が連動していて楽しい。
- ・ 木琴は必ず横に並んでいるものと思っていたが、単音にできることで、丸くなって使うなどもできる。子どもたちが喜びそう。
- ・ 音の楽しさが伝わる。触れてみたいと思えるのが大事。
- ・ やわらかい音なので、叩く時の音の強弱をつけることが難しいお子様がいても、他児に迷惑にならなくて良いと思う。
- ・ 簡単そうに思えるところがよい。

■ 教材についてのご意見・ご感想

開発教材 4 鍵盤対応プロジェクションマッピングアプリ「PMP」

- ・デジタルの子どもが好きそうな物を使いながら、本物の楽器を演奏できるのは楽しそう。
- ・自閉の子はこれで座るようになる。楽しく集中できそう。
- ・本物のピアノに使えるところが面白い。
- ・レッスンに来るのが楽しみになるお子様が增えると思う。
- ・初めて知った器具。身近になるとよい。

特に、『カラフル木琴 アルモ』は、楽器としてのわかりやすさ、演奏の指導しやすさから、特別支援学校の先生方よりご要望をいただき、現在、授業等でご使用していただいております。

■ 特別支援学校からのご意見・ご感想

- ・1人ずつ手に持って叩く、2人1組で机に置いて同時に叩くなど、生徒からの提案で使ってみることができた。他の木琴よりも活用が広がると実感した。
- ・パーツごとに使うことができるので、多くの生徒に活用でき、様々な音色の組み合わせを味わうことができた。
- ・アルモと色音符楽譜と組み合わせて使用することで、生徒にもわかりやすく楽しく学習できた。
- ・アルモはやさしい音で敏感な子供たちにぴったりな楽器だと思う。授業以外にも教室に置いて休み時間にも楽しめる。
- ・鈴やベルなどの高い音、金属音が苦手な子供がいるが、木琴の音は低くやわらかくて、抵抗なく聴くことができる。
- ・1音ごとに分かれているので、人数で取り組むことができる場所も良い。合奏するとき木琴は人気があるのでとても良い。
- ・自分の担当した音の名前を忘れても、色で覚えることができるのでわかりやすい。

■ 新たなニーズ・課題

本事業で開発した教材は好評をいただき、導入についても前向きなご意見、ご感想をいただいておりますが、課題点として、導入の際の活用方法を提案する必要性を実感しております。

新しい楽器の提案だけでなく、何を、どのように指導するかまでをフォローする指導マニュアル、それに伴う副教材までを一括して提案することが、指導の現場への貢献、特別支援対象児童の学習環境改善、音楽能力習得機会の拡大につながるものと考えます。今後

は、教材そのものの改善の他、活用セットの企画も視野に入れ、検討してまいります。

特別支援教育の分野においては、障がいのあるお子様が使いやすい教材が不足しており、指導の現場からは様々な要望が挙げられております。今後、教材使用のモニター期間として、少しでも多くの指導の現場よりご意見を伺い、ご要望にお応えできるよう、事業を進めてまいります。

■ まとめ

特別支援学校・特別支援学級で学ぶ児童生徒は増加傾向にあります。2007年4月に「特殊教育」から移行した「特別支援教育」が定着していくに伴い、特別支援学校における指導内容がより重要視されると予想され、障がいの特性に対応する教材はその状況に応えるものです。

「あぷり〜れ」をはじめ、本事業にて開発した教材は、障がいのあるお子様を対象としたものですが、そのわかりやすさは、初めて音楽を学ぶお子様すべてに有効です。障がいのあるお子様のみならず、一般の音楽教室や通常の小学校での教材としての使用等、障がいのないお子様への音楽指導に活用することも大変有効と考えております。

今後は、本事業で制作した教材を少しでも多くのお

子様の学びに活用いただくための主な活動として、特別支援学校を訪問しての説明会の実施、よりご要望にお応えする改良品制作と、全国的な販路の開拓を予定しております。

しかし、これらの実現のためには、活動のための資金、人員の増員などが必要となります。教材の改善、普及を進めるとともに、少しでも多くの皆様に、特別支援対象児童の学習環境改善、音楽能力習得機会の拡大によるQOLの向上の必要性を訴えながら、活動を進めてまいります。

今後も、アジェンダやまがたでは、すべてのお子様音楽を楽しみ、学ぶことができる環境をつくることを願いとし、そのために必要なサポートを提供すべく、活動を継続してまいります。

■ 参考



■ 山形大学附属特別支援学校説明会 (2018年3月7日)

場所:山形大学附属特別支援学校
対象:山形大学附属特別支援学校 教職員の皆様
(25名)



■ 成果報告発表会 活動写真 (2018年3月9日)

場所:アジェンダやまがた
対象:学校関係者、通所支援事業所利用の保護者
ピアノ教室等の音楽指導者の皆様
(2回実施で30名)



■ テレビユー山形「Nスタやまがた」にて 取材VTR放映 (2018年3月9日)

障害児向けに音楽教材
アジェンダ やまがた 商品化へ試作品完成

山形市認定NPO法人した指導教材が不足して「アジェンダやまがた」(児)いるところから昨年6月に試作した音楽指導教材を、障作開発に着手。福祉医療情報向けの音楽指導教材を機構(東京)の社会福祉試験した。音階を視覚的に興助成金700万円を活用理解しやすいよう工夫した。木琴やテキストなど4種類。今後、指導現場の声を基に改良を加え、商品化を期す。

同団体は音楽を通じた療育・指導を一つの指定障害児通所支援事業を手掛ける。多くの指導現場ではまだ十分な障害に配慮

本妻は音階が独立しており、単音を奏でることができ。音階が柔らかく、聴覚障害者にも配慮して、木製を選んだ。他に音階を色分けした色音階配列、イラストを使い音階や意図の仕組みを分かりやすく



紹介したテキスト、プロシエクションマッピングの色を照射し演奏を助けるアプリを試作した。80以上の学校関係者、保護者を集めて説明会を開いた。

児玉代表理事は「「まき」を生みやすく最も難しい導入期に、子どもたちが小さな課題をクリアしながら音楽に親しめるよう工夫した。試作品をベースに、指

指導現場の要望に応える教材に仕上げたい」と話した。問い合わせは同団体023(679)4045。

■ 山形新聞 (2018年3月14日掲載記事)

